

書き言葉にふさわしい語彙の発達
ー トロント補習授業校児童・生徒のバイリンガル作文からー
A Path toward Academic Writing: Development of Pre-Academic Vocabulary of
Heritage Japanese Students at Toronto *Hosyuko*

生田裕子, 中部大学

Yuko Ikuta, Chubu University

佐野愛子, 北海道大学

Aiko Sano, Hokkaido University

中島和子, トロント大学

Kazuko Nakajima, University of Toronto,

中野友子, ブルックリン日本語学園

Tomoko Nakano, Brooklyn Nihongo Gakuen

福川美沙, 元トロント補習授業校教諭

Misa Fukukawa, Former Instructor at Toronto *Hosyuko*

1. はじめに

1.1 継承語としての日本語とバイリンガル育成

2言語の環境で暮らす子どもたちにとって、学習全般を支える「書く力」をバランスよく育てていくことは重要な課題である。本発表では、継承語としての日本語における「書き言葉」がどのように発達するのか、そして、英語の「書き言葉」との関係がどのようなものであるのか、バイリンガル能力育成の観点から報告する。

1.2 トロント補習授業校の児童・生徒にとっての書き言葉

「書き言葉」の定義は決まったものがあるわけではなく、「話し言葉」との境界線も明らかではない。ここでは単に文字を媒体とする言葉というだけでなく、あらたまった状況における文章表現と捉える。

書き言葉らしさは、当該のジャンルや文脈への適切さも関わっている。本調査では「カナダのことを知らない人に説明する」というテーマで作文を書いてもらっており、説明文であると同時に、日本に住む同年代の子どもに語りかけるという手紙文のようにもなり得る。いずれにせよ、見知らぬ人にカナダのことが分か

るようという配慮が必要であり、ある程度あらたまった状況設定と言える。

本発表で考慮すべきことは、発達段階にある小・中学生が対象者であるということである。年少時には話し言葉と書き言葉の区別がつかないものだが、対象者はまさに書き言葉を身につけつつある児童・生徒たちである。よって、成人が用いるような書き言葉をそのまま使えるわけではない。

もう一つ考慮すべきことは、日本国内と比較すると、対象者の文字環境が限られているということである。週日は現地校に通い、土曜日のみ日本語による授業を受けるという環境で、書き言葉を発達させることは可能なのだろうか。

さらに、対象者である児童・生徒は、英語による作文教育を受けているという点も重要である。現地校で身につけたスキル、作文能力は日本語作文にどのような影響をもたらすのであろうか。

1.3 書き言葉らしさを測る指標

日本語の書き言葉らしさを測る指標としては、以下のような例が挙げられる。

- (1) 文体（「です・ます体」か「だ・である体」か）
- (2) 語彙（漢語、文語的な和語表現など）
- (3) 表現（接続詞、助詞相当句、文末表現など）
- (4) 構文（並列節の用い方、従属節の種類など）

本研究では以上のものを含め様々な観点から分析を行なっているが、発表ではこの中の語彙、それも漢語使用に着目する。

漢語は抽象的な概念を正確に表わすことができ、論説文や記事などに用いられる。日常的な会話ややわらかい書き言葉ではあまり用いられず、同じ内容でも漢語を用いると以下のようなになる。

例：レポートを直して出す。→レポートを訂正して 提出する。

例：体の調子が悪かったので、家に帰った。→体調が悪かったので、帰宅した。

また、教科書コーパスによる調査でも、学年の上昇に伴い、漢語の比率の増加が和語と比較して急激であることが指摘されており（近藤・田中 2008）、学齢による変化が顕著に現れる項目であると言える。このことから、漢語使用は書き言葉らしい語彙の発達を把握しやすい指標であると考えられる。

一方、英語作文については、年少者の最頻出語彙を除いた「プレアカデミック語彙」を書き言葉にふさわしい語彙の指標とする。内容についての詳細は3. 2で述べる。

2. 調査の方法

調査は、トロント補習授業校に在籍する小学1年生～中学3年生 336名を対象に行なった。授業時間内に担任の先生の監督のもと、日本語と英語でそれぞれ「カナダに来たことのない人にカナダの紹介をする」というテーマで作文を書いてもらった。

3. 分析方法

以下の3点について、それぞれ分析を行った。

- ① 日本語における漢語数とその内容
- ② 英語におけるプレアカデミック語彙数
- ③ 日本語の漢語と英語のプレアカデミック語彙の相関関係

3.1 漢語の定義と数え方

2文字以上の漢字を組み合わせた「音読み+音読み」の熟語に限定した。したがって、以下のような例は除く。

(1) 一文字の漢語

- ・ 所、人、服、量、方、僕、肉、楽、線など
- ・ 時、分、年、回、個、番、度などの単位を表わすもの
- ・ 人、州、様、湖などの固有名詞の一部
- ・ 約-、第-などの接頭語
- ・ -製、-産などの接尾語

(2) ひらがなで書くのが普通なもの

きれい、いっぱい、たくさん、ふつう、えんぴつ、だんだん、だいぶ、など

以上のような漢語を、日本語辞書 UniDic-MeCab に基づいて形態素解析を行うソフトウェアツール「茶まめ」(Ver. 1.71) によって抽出した。表1は使用例である。

表1 漢語の使用例

年齢	使用例
6-7 歳	英語、外国、学校、勉強、勉強する、簡単だ、今度
8-9 歳	学校、現地校、外国人、問題、景色、動物、安心する、緊張する、毎日、最初、最近
10-11 歳	学校、北部、外国人、世界、自然、動物、以前、電力、都合、試験、学年、文句、地震、災害、合格する、有名だ、全部、一番
12-13 歳	学校、英語、現地校、世界、教室、授業、体育、音楽、以外、科目、菓子、事実、勉強、算数、言語、上位、人種、国土、事実、発表する、通学する、移動する、特別だ、可能だ、大変だ、当然
14-15 歳	英語、転校、世界、気候、平均、温度、都市、民族、国歌、文化、興味、最後、石油、森林、大量、海外、国産、事実、天然、資源、公用、緯度、内陸、区域、先進国、知名度、内陸、緯度、輸出する、紹介する、豊富だ

3.2 プレアカデミック語彙とは

英語においては、書き言葉にふさわしい語彙として Academic Word List (Coxhead, 2000) が用いられることが多い。これは、新聞、雑誌、論文などに掲載されるアカデミックな文章に頻出の語彙 570 word family のリストである。しかし、小学生と中学生を対象とした本研究にはそぐわないレベルのものであり、実際に書いてもらった作文でもリスト上の語彙はあまり使用されていなかった。そこで、年少の子どもたちが使用する最頻出 2,500 語 (Roessingh & Cobb, 2007) を Vocabprofile for Kids (<http://www.lex tutor.ca/vp/kids>) によって調べ、これらを英作文から除いた語をカウントしたところ、年齢に沿って着実に増えていることがわかった。そこで、最頻出 2,500 語以外の語彙を「プレアカデミック語彙 (PAW)」と名づけ、本研究の英語作文における「書き言葉」の語彙の指標とした。表 2 は使用例である。

表2 プレアカデミック語彙の使用例

年齢	使用例
6-7 歳	language, tons, education, traditional, English, popular, communicate, understand, translate, shocked, annoying
8-9 歳	facts, cultures, adults, education, private, polite, including, officially, history, April, popular, views, attraction
10-11 歳	describe, northern, unlike, possible, degrees, scenery, eastern, coasts, example, education, language, complicated, understand, competitions, regional, conference, succeeded, joy, English
12-13 歳	culture, language, students, history, depends, advantage, strictly, prohibited, resident, immigrants, suffering, recently, permits, becoming, problem, appreciation, crops, English, products, mentioned, medical, system, developed, diseases, unfortunate, perceptions, temperature, negative, thirty, January, February, problems, experience, tax
14-15 歳	related, cultural, immigrants, immigrate, temperature, average, areas, language, differs, knowledge, subjects, assessment, level, requires, summarization, government, private, illegal, worsen, limits, residents, population, compared, regarding, although, amount, existing, located, common, popular, fact, recent, peaceful, participated

4. 分析結果

4.1 漢語の発達

4.1.1 漢語数の変化

小学生から中学生の対象者を2歳ずつ区切って5つのグループを作り、それぞれのグループの一作文あたりの異なり語数と、その中に占める漢語数を表3、図1に示す。

図1を見ると、異なり語数に占める漢語の割合はそれほど高くないが、漢語数自体は順調に伸びている。一元配置の分散分析を行ったところ、年齢を要因とする漢語数に有意な変化がみとめられた ($F(4,234) = 39.2, p = 0.001$)。

表3 年齢グループ別の異なり漢語数（一作文あたり）

年齢グループ (N=240 ¹)	異なり語数	漢語数
6-7歳 (N=47)	43.7	2.8
8-9歳 (N=61)	72.9	5.8
10-11歳 (N=61)	95.1	9.4
12-13歳 (N=48)	105.5	13.3
14-15歳 (N=23)	132.7	20.1

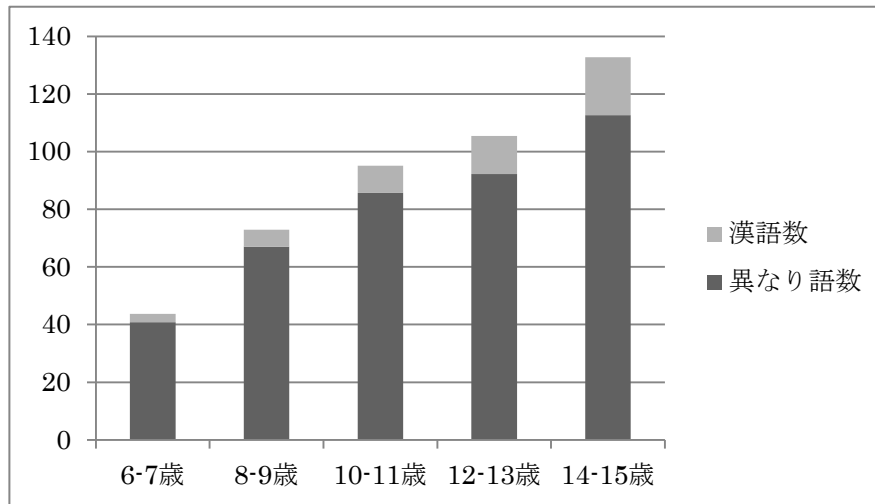


図1 年齢グループ別の異なり漢語数（一作文あたり）

¹ 調査対象者は336名であったが、本発表では2言語の相関関係も見するため、日・英作文ともに参加し、かつ保護者アンケートが提出された児童・生徒240名の作文のみを分析対象とした。

さらに、漢語数について Tukey 法による多重比較を行ったところ、6-7歳と8-9歳のグループの間には有意差がなかったが、他の全てのグループ間には有意差が見られた。すなわち、使用漢語数は、小学校高学年あたりから著しく伸びていくと言える。

次に、用いられている漢語を品詞別に見ると、表4、図2のようになる。

表4 漢語の品詞別の割合

年齢グループ (N=240)	名詞(%)	動詞(%)	形容動詞(%)	副詞(%)
6-7歳 (N=47)	77.1	6.1	3.1	13.7
8-9歳 (N=61)	80.0	4.2	5.6	10.0
10-11歳 (N=61)	77.8	5.1	8.0	9.1
12-13歳 (N=48)	76.3	8.6	8.3	6.9
14-15歳 (N=23)	78.1	7.1	8.2	6.7

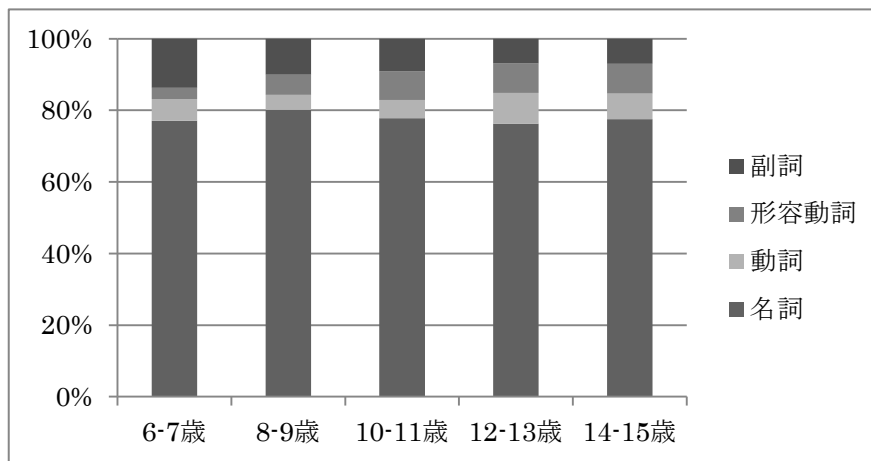


図2 漢語の品詞別の割合

漢語に占める名詞の割合が最も高く、その割合はすべての年齢グループにおいてほぼ同じである。動詞の割合はさほど変わらないが、形容動詞は年齢を追って増える傾向にある。逆に、副詞は「一番」「全然」を多用する児童が低年齢グループに多いが、年齢が上がるにつれて減少していく。

以上の結果と先行研究を比較すると、「名詞、動詞、形容動詞における漢語表現の習得および拡充の最初の兆候は、現出状況から見て小学校高学年から現れる(村上・田中 1997)」という観察に近い結果が見て取れる。

4.1.2 漢語の質の変化

それでは、使用されている漢語の質はどのように変化しているのだろうか。名詞の初出漢語を年齢グループ別に観察したところ、予想通り 6-7 歳では「学校」「先生」「英語」「勉強」など、身近なものに限られていた。しかし、8-9 歳では「法律」「文化」など日常生活から離れた語が出現し始め、10-11 歳では「経験」「特徴」などの抽象的な語²が見られるようになった。また、12-13 歳では「人種」「言語」「宗教」「移住」「差別」など、カナダの特徴として、移民の多さを挙げていることを反映した語が見られるようになった。さらに、14-15 歳では、学校生活や気候、年中行事などの身近な問題だけでなく、環境問題・医療問題など社会的なテーマを取り上げる生徒が出てくることから、「環境」「伐採」「個性」「医療」「情報」「課題」など、初出漢語の中には抽象的な語が多く見られるようになった。

このように、漢語の「質」についても、小学校高学年から抽象語彙が増える傾向が見られる。小学校高学年は、実物ではなく概念を表わす形容動詞を使うようになる時期でもある。この時期は、作文のテーマも客観的・抽象的なものを扱う児童が出始め、テーマとの関連性も語彙の変化に反映している。

しかしながら、「漢語の特性である造語性を修得し、習熟することで漢語の拡充を行っていく傾向は中学生の時期から現れる（村上・田中 1997）」ため、本格的に漢語を駆使するようになるのは高校生以降であると考えられる。本発表の対象者は中学生までであり、これ以降、漢語使用状況がどのように変化していくのか観察する必要がある。

4.2 英語のプレアカデミック語彙の発達

プレアカデミック語彙の異なり語数を表 5 に、漢語数と合わせたものを図 3 に示す。

英語のプレアカデミック語彙においても、漢語と同様、年齢を要因とする有意な変化が見られる ($F(4, 235) = 22.5, p = 0.001$)。年齢グループ別に見ると、6-7 歳と 8-9 歳の間、そして 8-9 歳と 10-11 歳の間には有意差はみとめられなかった。しかし、12-13 歳、14-15 歳はすべてのグループとの間に有意差があった。すなわち、プレアカデミック語彙に関しては、11 歳まではゆっくりと増えていき、伸びが著しいのは 12 歳以降ということになる。

² ここで言う「抽象的な語」とは、『分類語彙表』において「抽象的關係」あるいは「人間活動-精神および行為」に分類される語を指す。

表5 年齢グループ別のプレアカデミック語彙数（一作文あたり）

年齢グループ (N=240)	プレアカデミック語彙数
6-7 歳 (N=47)	0.7
8-9 歳 (N=61)	2.9
10-11 歳 (N=61)	5.4
12-13 歳 (N=48)	9.0
14-15 歳 (N=23)	13.5

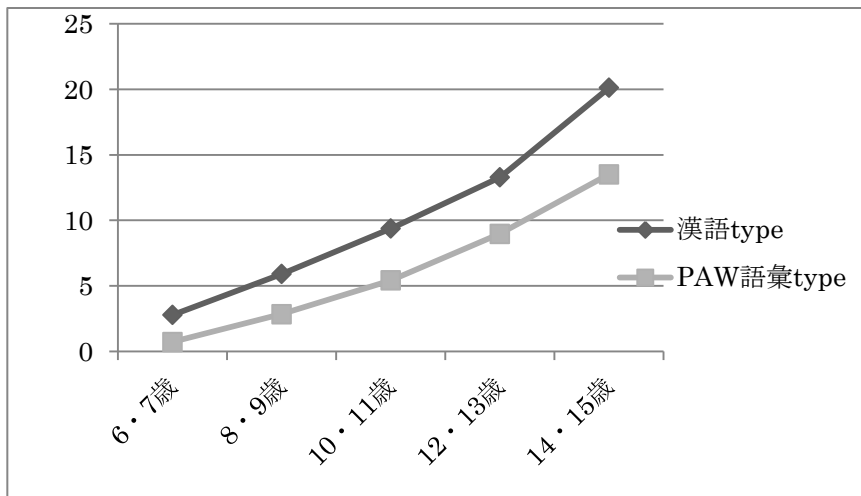


図3 年齢グループ別のプレアカデミック語彙数（一作文あたり）

4.3 英語と日本語の関係

最後に、日本語作文における漢語の発達と、英語作文におけるプレアカデミック語彙の発達には相関関係があるのだろうか。結果を表6に示す。

表6 漢語とプレアカデミック語彙の偏相関係数 r (滞在年数を統制)

年齢グループ (N=240)	偏相関係数 r
8 歳未満 (N=47)	.16 <i>n.s.</i>
8 歳以上 11 歳未満 (N=98)	.38***
11 歳以上 (N=95)	.53***

8 歳未満では 2 言語間の相関が見られなかったのに対し、8-11 歳では弱い相関、11 歳以上では中程度の相関がみとめられた。すなわち、年齢が高くなるにつれて、日本語で漢語使用の多い児童・生徒は英語でも書き言葉らしい語彙を使用する傾

向が強まるということである。

5. まとめ

「漢語」という書き言葉にふさわしい語彙の発達に関しては、日本国外という文字環境の限られた状況であるにもかかわらず、年齢を追うごとに積極的に使用するようになることがわかった。これは、トロント補習授業校が15,000冊に及ぶ蔵書の図書館を有しており、読書表彰を行うことで文字に触れることを奨励するなど、海外においてはかなり恵まれた文字環境であることも影響していると思われる。

さらに、英語のアカデミック語彙との関係から、書き言葉にふさわしい語彙は2言語間で影響し合いつつ発達していく可能性が示唆された。このことから、Cummins (2008) で提唱されているように、2言語を指導上何らかの形で関連づけ、それを意識化することにより、転移の自然発生を待つのではなく人為的に2言語の「書く力」を促進できるのではないかと考える。

参考文献

- 国立国語研究所 (編) (2004) 『分類語彙表-増補改訂版』 大日本図書
- 近藤明日子, 田中牧郎 (2008) 「学校教科書の語彙-語種を観点として-」 『日本語学』 9, 26-35 明治書院
- 村上博之, 田中美也子 (1997) 「同題作文における漢語表現の発達」 長友和彦 (研究代表者) 『児童・生徒・学生および日本語学習者の作文能力の発達過程に関する研究』 平成8年度文部省科学研究費補助金基盤研究 (B) (2) 研究成果報告書 1-22
- Coxhead, A. (2000). A new academic word list. *TESOL Quarterly*, 34(2), 213-238.
- Cummins, Jim. (2008). Teaching for transfer: Challenging the two solitudes assumption. In J. Cummins & N. Hornberger (Eds.), *Encyclopedia of Language and Education Volume 5: Bilingual Education*, 65-75. Boston, MA: Springer.
- Roessingh, Hetty. & Cobb, Tom. (2007). Lextutor for kids: Profiling the vocabulary of k-2 learners. Powerpoint. Retrieved February 16, 2009, from: <http://eslrw.ucalgary.ca/files/eslrw/TESOL%20VP%20for%20Kids.ppt>